

社説

弘大COIネクスト

第45回陸奥新報社賞を、弘前大学健康未来イノベーション研究機構（弘前大COI-NEXT）が受賞した。大規模な住民健診「岩木健康増進プロジェクト（岩木健診）」を継続して健康関連のデータを蓄積。2013年、22年には国のプロジェクトの拠点となり、データを核にした「QOL（生活の質）健診」を開発するなど、健康寿命延伸や地域活性化につながるさまざまな取り組みを展開している。

25年1月には国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の採択を受け、心身の健康と幸福に関する世界トップレベルの研究拠点を目指して、さらに大きく飛躍しようとしている。積み重ねてきた実績から、世界レベルの中核研究大学として認められ

たということ、県民としても誇らしいし、今後の推移も注視したい。岩木健診は05年に「短命県返上」を掲げて始まった。本県は男女ともに平均寿命が短く、特に男性は1985年から最下位が続いている。飲酒や喫煙の問題、塩分摂取量の多さや健診の受診率の低さなど、要因は

取り組みが自治体や事業所なども巻き込み、県民の意識改革に大きな役割を果たしてきたと言えるだろう。その後の活躍は言うまでもない。岩木健診が注目を集め、貴重なデータの蓄積が進むにつれ、連携する大学や企業などが増え、明治安田とはQOL共創研究所を開設し、共同研

さらなる飛躍を期待